

## (令和元年度単年度経営計画)

(株)京都産業振興センター		令和元年度経営計画 兼 経営努力結果	
<b>基本事項</b>			
所管局課	産業観光局クリエイティブ産業振興室	本市出えん金	54,000 千円
基本財産/資本金	90,000 千円	本市出えん率	60.0 %
<b>「外郭団体のあり方の抜本的な見直し」に係る「今後の方向性」</b>			
方向性	自律化	目標年度	令和2年度
<b>「今後の方向性」に向けた基本的方針</b>			
業務面	勸業館利用者の満足度の向上、また、積極的な営業活動により稼働率50%以上を確保することで、安定した会社経営を維持し、企業としての信頼度を高め、勸業館指定管理者の継続的な受託を目指す。		
財務面	堅実な経営のもと継続的な利益の確保に努め、自己資本の更なる充実を図る。		
組織面	業務知識・経験を効果的に活用・継承することで、社員の能力・資質向上に努め、組織の活性化を図る。		
その他	京都市勸業館の老朽化した施設、設備の改修について、施設所有者である京都市に対し、これまでの施設管理ノウハウを活かし、利用者の目線に立った効果的な改修計画の提案を行う。		
<b>当年度の取組目標に対する意見</b>			
所管局	<p>稼働率50%以上の安定的な利用の確保を図る上では、地元のみならず、他地域の顧客獲得が必要であり、引き続き積極的な情報収集、営業活動に取り組み、成果に結び付けていただきたい。また、京都伝統産業ふれあい館のリニューアルオープンを契機に、同館との更なる連携の強化によって来館者の増加を図る姿勢は評価できる。</p> <p>今後とも、一層の経営の効率化に努めるとともに、閑散期対策における自主企画事業の充実、効率的・効果的な施設設備の改修・修繕の提案により、引き続き、黒字の確保を目指していただきたい。</p>		
<b>当年度の「今後の方向性」の進捗状況及び各取組に対する総括(※)</b>			
団体	<p>○業務面では、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、1月までの好成績に支えられ、今期稼働率は50.71%となり、目標稼働率には届かなかつたが4期連続で50%以上の稼働率を確保することができた。</p> <p>○財務面では、前年度対比でわずかに増益となり、対当初予算でも、営業利益、経常利益、税引前純利益ともに予算目標をクリアすることができた。</p> <p>○組織面では、京都伝統産業ミュージアムのリニューアルに伴うミュージアムショップの店舗改修に取り組むため、店舗運営経験者を採用し体制強化を図った。また、社員だけでなく、勸業館に勤務する他団体も交えた研修を実施し、勸業館全体のレベルアップを図った。</p>		
所管局	<p>令和元年度は、常設展示場（京都伝統産業ミュージアム）のリニューアル工事に伴い、併設するミュージアムショップも規模を縮小しての営業となったことや、新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年2・3月の展示場利用が相次いでキャンセルとなったこと等に伴い、会社全体の売上高及び営業利益は昨年度比で減少となったものの、最終的に収支は黒字を計上しており、経営努力を評価できる。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響によるイベント自粛等の情勢から、今後の経営面での見通しが立てづらい状況ではあるが、引き続き、コスト削減等の経営努力やウィズコロナ時代に即したイベント開催への対応・提案等による展示場稼働率の向上に資する取組を期待するとともに、新たな収入源確保の検討等により、収益増を目指すよう指導する。</p>		

## (令和元年度単年度経営計画)

(株)京都産業振興センター	令和元年度経営計画 兼 経営努力結果
---------------	-----------------------

## 本市のえん率引下げに向けた実施計画

中期経営計画における取組内容	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	具体化に向けた調整	具体化に向けた調整	具体化に向けた調整
当年度目標	実施手法に関する検討		
当年度結果(※)	実施手法に関する検討		

## (1)業務に関する取組

目標「京都市勧業館の利用促進」	
中期経営計画における取組	京都岡崎MICEスクエアの拠点施設として、積極的な営業活動を展開し、大型催事の誘致を目指す。営業機会を逃すことのないよう数年先を見越した情報収集に努める。また、利用者にとって「使いやすい施設であること」を最優先に、利用者の要望に対応していくことにより企業としての信用度を高める。
当年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新規大型催事の積極的な誘致と既存事業者の継続利用に取り組むことで、稼働率の達成と利益率の向上を目指す。</li> <li>○併設する京都伝統産業ふれあい館が当年度にリニューアルオープンすることを踏まえ、ふれあい館との連携を強化することで、京都伝統産業ふれあい館及びミュージアムショップ京紫苑の来館者増につなげる。</li> <li>○マーケティング手法の強化を図ることで、顧客満足度の向上を目指す。</li> </ul>
当年度結果(※)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今期は、2月上旬までは当初目標を上回る稼働率(56%弱)を想定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で2月から3月にかけて利用の取り止めが相次ぎ、最終的には想定より5%程度低い稼働率(50.71%)に止まった。しかし、1月までの好成績に支えられ、4期連続して50%を超える稼働率を確保した。</li> <li>○京都伝統産業ミュージアムとの一体感を重視し、同ミュージアムのリニューアルに合わせて当社が独自に改修を行った京都伝統産業ミュージアムショップは、ミュージアムと同じ3月14日にリニューアルオープンしたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、入館者数は伸びなかった。</li> </ul>

指標	展示場の面積稼働率 (単位：%)							
	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
中期経営計画	—		53.00		53.50		54.50	
実績	見込	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績
	55.00	55.12	53.00	52.85	53.50	50.71	—	

## (令和元年度単年度経営計画)

(株)京都産業振興センター	令和元年度経営計画 兼 経営努力結果
---------------	-----------------------

## (2)財務に関する取組

主要財務数値							(単位:千円)
	平成30年度		令和元年度		令和2年度		備考欄
	予算	実績	予算	実績(※)	予算	実績	
経常収益	697,100	708,634	704,200	707,345			
経常費用	677,600	681,865	684,000	683,661			
経常利益	19,500	26,769	20,200	23,684			

目標「税引前当期純利益の確保」	
中期経営計画 における取組	<p>市への納付金の支払いを確実に履行したうえで、京都市勸業館指定管理者の公募選定時の提案に記載した額を上回る税引前当期純利益(収支差額)が確保できるよう、収入の増加、経費の節減に努める。 (平成29年度末に京都館が閉館したことに伴い、京都館事業は終了した。)</p>
当年度目標	<p>○新規大型催事の積極的な誘致に取り組むことで、利用料の増収を図る。 ○イベントサポート・サービス事業を強化することで、利益率の向上を目指す。 ○併設する京都伝統産業ふれあい館がリニューアル工事を迎える中、ミュージアムショップ京紫苑の売上確保を目指す。</p>
当年度結果 (※)	<p>○上半期は、夏休みの子ども達をターゲットにした新規催事が開催されるなど、稼働率、利用料収入ともに好調に推移した。2月、3月は新型コロナウイルス感染症の影響で取り止めとなる催事が相次いだものの、収入面では施設利用料収入は前年度より増加した。 ○ミュージアムショップの商品売上については、下半期は仮店舗での営業であったが、ほぼ当初目標額に近い成績を残せた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で3月14日のリニューアルオープン以降の売上は伸びなかった。</p>

指標	税引前当期純利益								(単位:千円)
中期経営計画	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		
	—		19,500		20,200		22,700		
実績	見込	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績	
	33,000	26,288	19,500	21,051	20,200	22,086	—		

## (令和元年度単年度経営計画)

(株)京都産業振興センター	令和元年度経営計画 兼 経営努力結果
---------------	-----------------------

## (3)組織に関する取組

## 目標「適切な人員配置及び個々の業務遂行能力の向上」

中期経営計画 における取組	業務量に見合った社員の配置見直しを行うことにより業務の効率化を図るとともに、社員のスキルアップを図るための研修を実施する。
当年度目標	○業務量に見合った人材の適切な配置により業務の効率化を図る。 ○社員はもとより、京都伝統産業ふれあい館職員等をはじめ、館内協力企業従事者を含めた研修を行うことで、京都市勸業館全体としての資質の向上を目指す。
当年度結果 (※)	○京都伝統産業ミュージアムのリニューアルに伴うミュージアムショップの店舗改修に取り組むため、店舗運営経験者を採用し体制強化を図った。 ○伝統産業ミュージアム及びミュージアムショップのリニューアルに当たり、京都市の伝統産業課長に講師となつていただき、当社社員とミュージアムを運営する財団職員も参加して京都市の伝統産業についての研修を行った。

指標	効果的な研修の実施 (単位：回)							
中期経営計画	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	3回以上		2回以上		2回以上		2回以上	
実績	見込	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績
	3回	3回	2回以上	4回	2回以上	2回	—	

## (4)その他の取組

## 目標「京都市勸業館改修計画の実行支援」

中期経営計画 における取組	施設、設備の改修、修繕について、京都市勸業館の管理に関する協定書に規定された市との役割（負担）区分に基づき、これまでの指定管理者としてのノウハウを活かした提案を行う。
当年度目標	京都市が策定された改修基本計画と連動した小修繕に迅速に対応するとともに、指定管理者としての施設管理ノウハウを活かした積極的な提案を行う。
当年度結果 (※)	京都市勸業館の管理に関する協定書に規定された負担区分に基づく緊急修繕に積極的に対応した。また、当社の設備改善事業として、一部のトイレの洋式化及び温水便座化を進めた。施設、設備の経年劣化等に伴う不具合箇所については、その詳細を逐一京都市に報告し、その必要性についての認識の共有を図った。

指標	特になし							
中期経営計画	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	—		提案		提案		提案	
実績	見込	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績
	—	—	提案	報告, 提案	提案・実施	提案, 実施	—	